

第7回大会

日本地域包括ケア学会

大会テーマ：在宅療養から見た地域包括ケアシステムの現状と課題

2025/12/21 (Sun) 13:30-17:30

※会場・オンライン参加のいずれも、下記 Peatix サイトからの事前申込となります。

お申込み方法

下記 URL または記載の QR コードからお申込みください。
※受講者 1 名ごとに個別にお申込みください。

申込専用 URL

<https://chiikihoukatsu2025.peatix.com>

お申込みは Peatix サイトにて受け付けております。
Peatix でのお申込みには Peatix アカウント登録が必要になります。また参加費のお支払いはクレジットカードやコンビニエンスストアでの支払いとなります。詳細は Peatix サイトにてご確認ください。



受付締切は
令和 7 年
12 月 19 日
です



基調講演

「在宅療養を支える医療介護と暮らし支援

～身寄り無し者急増を踏まえて～

2040 年の日本を展望すると高齢者人口の伸びは落ち着き、現役世代（担い手）が大幅に減少をしていく。さらに単身世帯の増加、親族の減少、近隣関係の希薄化により、今後「身寄り無し高齢者」が急増していくことが見込まれている。厚生労働省では「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン」「身寄りのない高齢者を介護施設等で受け入れるときの主なポイント」等を発出し、身寄りがないことで医療や介護分野での不利益がおこらないように注意喚起をしている。一方でそのような高齢者が在宅療養をするためには、医療介護だけではなく、暮らしの支援も重要となってくる。本講演では身寄り無し高齢者の課題に対し、地域包括ケアの視点で今後どのような施策が考えられるのかを明らかにしていく。

シンポジウム①

「地域包括ケアを支える在宅療養の担い手」

全国各地で地域包括ケアが進み、病診連携・医療介護連携・多職種連携などが地域に合わせた形で構築され、医療介護分野で支える体制は日々進化をしている。今後増加することが見込まれている 85 歳以上の高齢者は医療や介護のほかにも「社会的孤立」「経済的な課題」「様々な場面での意思決定」など多様な課題を抱えており、単に在宅医療を提供するだけでは十分な支援ができていないと言いがたい。本シンポジウムでは全国でも先進的な在宅医療・暮らしの支援に取り組んでいる演者をお招きし、在宅療養を支える仕組みと、超高齢社会でも誰もが暮らし続けられる地域をつくるための道筋を示していく。

シンポジウム②

「在宅医療の仕組みを支える医師会の活動」

新たな地域医療構想は、在宅医療・外来、介護連携等も対象とすることを明示したうえで、高齢者の増加や人口減少がさらに進む 2040 年とその先を見据えて、全ての地域・世代の患者が適切に医療・介護を受けながら生活し、必要に応じて入院し、日常生活に戻ることができる体制構築を目的として掲げている。地域包括ケアシステムは地域特性に合わせた形で構築されることを想定しているため、各地域の在宅医療の全体像は、地域医療構想調整会議等を通じて構築していくことになるが、その取り組みの状況は千差万別であり、十分な在宅医療の質や量の確保は個々の医療機関の努力だけでは難しい。本シンポジウムでは都道府県及び郡市区医師会が中心となり進めている在宅医療を支える活動を紹介するとともに、2040 年の目指すべき将来像について明らかにしていく。

★本大会は日本医師会生涯教育講座に認定されております。

本大会は日本医師会生涯教育講座に認定されております。基調講演:1 単位 (CC13) シンポジウム①:1 単位 (CC10) シンポジウム②:1 単位 (CC80)。参加証を希望される方は「ZOOM ウェビナー」で当日視聴し、学会後お送りするアンケートにお答えください。
※学会当日に視聴をしたログの確認をいたします。ログの確認ができない場合、恐れ入りますが、参加証の発行はできませんのでご了承ください。

医師以外の職種で受講証明書をご希望の方は、学会視聴後にお送りするアンケートにお答えいただいた場合、受講証明書を郵送いたします。